

平成 30 年度 第 4 回「防災スペシャリスト養成」企画検討会

議事概要

1. 検討会の概要

日 時：平成 30 年 12 月 12 日（水）15：00～17：00

場 所：中央合同庁舎 8 号館 5 階 共用会議室 B

出席者：林座長、岩田委員、牛山委員、宇田川委員、大原委員、国崎委員、黒田委員
中林委員、丸谷委員、渡邊委員
海堀政策統括官、小平審議官、安邊参事官、西村企画官、小林参事官補佐

2. 議事概要

(1) 有明の丘研修(第 1 期)の実施状況

有明の丘研修(第 1 期)の実施状況を報告した。

(2) 有明の丘研修(第 2 期)の実施内容

有明の丘研修(第 2 期)の実施内容について報告した。

(3) 研修のあり方検討

- 地域研修(仮称)の実施方法、骨子、基本カリキュラムの構成等については事務局の提案通りでよい。
- 将来的には内閣府が作成したテキストを用いて内閣府以外の講師が講義できるようにしてもよいのではないか。
- 講義の質の向上のためには、内閣府が講師を担当する場合は、実際に講義内容の業務を担当し、実務に通じた職員が担当するのがよいのではないか。内閣府以外の講師が講義し、内閣府の職員が補助役として質疑応答を行う形式も考えられる。
- 都道府県に研修を任せていくためには、内閣府の OJT 職員を講師として活用することを検討してはどうか。
- 災害発生前の防災計画作りや、地域での人材育成、自助共助、コミュニティ関連等の予防対策に関する学習目標がないため、追加してもよいのではないか。
- 演習のカリキュラムは複数用意し、自治体のニーズに合うよう選択できるようにしておくともよいのではないか。
- 1 つのグループ内で災害対策本部演習を行う場合には、グループ間で評価したり、とりまとめの仕方の重要性を気付けたたりできるような仕組みを考えておいたほうがよい

のではないか。

- 2日目午後の演習「災害対策本部における対応」を午前中に実施し、その後座学を受講し、演習時の反省点の気づきを促すなども検討してはどうか。
- 演習の想定を1日目は発災直後、2日目は発災3日目にするなど、1日目と2日目の座学と演習を関連付けた設計にすると、研修の効果はより向上するのではないか。

(4) 能力評価のヒアリング実施内容

- 電話によるヒアリングにおいては、周囲からのバイアスがかけられないように修了者に個室で対応してもらうなどの配慮が必要である。
- 「組織の変化なし」と回答した修了者に対しても組織の派遣動機をヒアリングすることによって、今後の公募方法の改善につながるのではないか。
- ヒアリングする人によって回答に差が出ないように訊き方を工夫し、客観的なヒアリング結果が得られるようにすべきである。
- ヒアリング結果の公表に関しては、個人や組織が特定されると迷惑がかかる場合もありえるため、慎重に対応する必要がある。
- 「自治体が被災した」あるいは「他の自治体の応援活動をした」ことのある者には災害対応の現場で研修が生かされたかどうか、また、平時の予防対策においても研修が役立ったかどうか、の2つの観点について、受講者の回答内容を踏まえて漏れがないようにヒアリングするとよい。
- 受講者同士の人的ネットワークが現在も継続しているのか、組織間にまで広がっているのかも訊いてみるとよい。
- 組織における研修受講歴の記録・管理や、研修受講者の防災関連部署への配置など、育成した人材の管理や活用の考え方についても訊いてみるとよい。